

甲州市景観セミナー&ペンキ塗りを開催！

市民の皆さんに景観への関心を高めていただくため、「産地の未来と景観まちづくり」をテーマに、宮光園白蔵で景観セミナー・ペンキ塗りを開催しました。

●日時:2019年3月16日(土) 13:00~16:30

●参加者:50名(セミナー・ペンキ塗り)

●プログラム

- (1) 基調講演 「まもる・つくる・はぐくむ景観」 株式会社 Tetor 山田 裕貴 氏
- (2) 取組報告①「豊かな時間を積み重ねた土地のみかた」山梨大学准教授 菊地 淑人 氏
- (3) 取組報告②「地域に共感される屋外広告物」有限会社 CLIMAT 加藤 幸枝 氏
- (4) ペンキ塗り (宮光園東側ガードレール)

主催:甲州市・甲州市教育委員会

(1) 基調講演「まもる・つくる・はぐくむ景観」 13:10 - 14:10

株式会社 Tetor(テトー) 代表取締役 / 景観デザイナー
法政大学 / 国土館大学 / 東京大学 非常勤講師
山田 裕貴 氏



○ 地域の歴史を紐解き、景観・土木デザインの視点から特徴ある要素を手がかりとする設計、そしてさまざまな人との関わりの中で魅力ある場を作り上げていく事例の紹介は、甲州市でも大いに参考になるものでした。

- ・高度経済成長と標準設計からの反省
- ・土木構造物をつくること = 社会や環境に大きな影響(標準設計から生まれる風景)
- ・建築と土木を一体的に計画(奈義町 ナギテラス) 現場(人)との関わりを重視
- ・100年続く景観を考える = まもる(過去)・つくる(現在)・はぐくむ(未来)
- ・景観は過去・現在・未来すべてから成り立つ ⇒ 多様な取り組みが大切

(2) 取組報告①「豊かな時間を積み重ねた土地のみかた」 14:20 - 14:40

山梨大学生命環境学域 准教授

菊地 淑人 氏



- 平成 28 年度より取り組んでいる、勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観に関する活動について報告いただきました。

- ・文化的景観とは、一面のブドウ畑や歴史あるワイナリーに象徴される景観とそれを生み出している人たちの生活やなりわい、積み重ねてきた活動の歴史
- ・ブドウ畑は江戸時代に山側傾斜地などに点在していたが、戦後急激に普及していった
- ・景観をかたちづくるもの = ながめ(表現形) ← さまざまな背景(地域のシステム)
- ・景観をかたちづくる背景 = その地域の 自然環境 × 歴史 × 生業 × 生活・文化

(3) 取組報告②「地域に共感される屋外広告物」 14:40 - 15:00

有限会社 CLIMAT(クリマ) 取締役 / 甲州市景観アドバイザー

武蔵野美術大学 非常勤講師 / 東京都広告物審議会委員 他

加藤 幸枝 氏



- 屋外広告物に関する景観ワーキング会議の取り組みについて報告いただきました。

- ・屋外広告物に検討が必要な事項 = 高さ、大きさ、数量、デザインや色の問題
- ・屋外広告物のあり方(甲州市にふさわしい、おもてなし看板)について検討
 - ⇒ 市内の屋外広告物に関する勉強会、チョークアートWS&アンケート、フットパス体験(地域資源の活かし方)、店舗看板のデザイン検討WS
- ・甲州市らしさ、魅力ある景観まちづくりにむけて、今後益々、検討と実践・指針の発信と伝達、が重要

(4) ペンキ塗り 15:30 - 16:30

○ 宮光園東側のガードレール約 115m を白色から「甲州ブラウン」に塗替えました。地域住民や生徒・学生など、ボランティアとして参加した皆さんはガードレールが周辺景観になじんでいくことを実感しながら、作業を楽しんでいただきました。



○ ビフォー・アフター



○ アンケート結果(抜粋)

Q. 今回のセミナーについて、意見・感想などを自由にお書きください。

- ・公園や広場などいろいろな場所のデザインをするという仕事内容が知れてよかった。
- ・景観やデザインについて知ることができ、また自分が行きたい山梨大学の先生の話も聞けて良かった。
- ・景観を良くすることで人が増え、勝沼が有名になっていくと思った。また自分たちの住んでいるところは自分たちで良くしていかなければと思った。自分も知らなかった勝沼のことを知ることができ、とても良いセミナーだった。
- ・専門的で難しい話を理解するのに少し苦労したが、貴重な景観デザイナーの方のお話を聞くことができ、とても良い経験になった。景観は長く残るものなので、人の記憶に色濃く残る景観づくりを目指しているプロとしての熱意を感じた。
- ・いい街をつくるのも、未来に残すための活動を取り組むことも、1人ではできないため、みんな協力で行うことの大事さを知った。今まで地域の過去・現在・未来について深く考える機会がなかったので貴重な経験になった。
- ・このようなボランティアやセミナーに参加は初めてで、難しく戸惑うときもあったが、すごくいい経験になった。ありがとうございました。
- ・観光ブドウ園の屋外広告物に関しては、あれこそが勝沼という気がするが、ワイナリーの落ち着いた感じも良いと思うので、いろいろな色のある景観が勝沼らしいと思った。
- ・全く知らなかったことを良く知ることができてよかった。また参加したい。
- ・地域らしい景観とは何かを再確認する良い機会だった。興味深いお話を聞いて勉強になった。

Q. あなたが思う甲州市の『未来に伝えていきたいもの』は何だと思いますか。

- ・ここにある場所はこういった人たちが関わり、いろんなことが考えてつくられているので、どんな場所でもマナーよくきれいに使っていくということ。
- ・地域を活かした取り組み、「甲州市らしさ」。
- ・ぶどうなどの果樹園。フットパスに参加したことがあり、その際ぶどう畑を見渡しとてもきれいな景色だと思った。何か特別で目立つものを伝えるより、普段自分たちが見ているぶどう畑などの景観を未来に伝えるべきだと思う。
- ・どんどん利便性が重視される中で、10年、20年経ち甲州市に戻ってきても若い頃を思い出すような景観だと思う。そのため私達学生が積極的に景観を守っていく活動ができたらなと思う。
- ・当たり前新しいものができると思わずに、市に協力したりする中で、自分たちも大切にしたい意識を持ちたい。
- ・流行に乗って人を集めるのも大切だと思うが、甲州市にしかないもの・できないものを大切に、またなくさないようにすることが一番大事だと思う。
- ・歴史、文化、自然の折り重ねによってできた景観。それに関わる人々の想い、精神を伝えていく。
- ・一面に広がる自然と果樹園、農園。
- ・先人から受け継いできた地域資源を同じ形で次世代に受け継ぎ、且つ地域らしさを学ぶことが大切だと思う。地域資源を子どもたちが学ぶ教材にしていけたら、地域資源の独自性と価値を併せて伝えていけると思う。